

国立公文書館 EAD 定義

第 1.08 版

独立行政法人 国立公文書館

< 目 次 >

1.1.	対象となるデータの構成	4
1.2.	EAD ヘッダ	5
1.3.	レファレンス・コード	6
1.4.	タイトル	7
1.5.	年月日	8
1.6.	記述レベル	9
1.7.	数量	10
1.8.	作成者名称	11
1.9.	組織歴(または履歴)	12
1.10.	資料履歴(伝来)	14
1.11.	入手先	15
1.12.	資料内容	16
1.13.	評価、廃棄処分、保存年限	18
1.14.	追加受入	19
1.15.	編成	20
1.16.	公開条件	21
1.17.	利用または複写条件	22
1.18.	使用言語	23
1.19.	物的特徴	24
1.20.	物的特徴(2)	25
1.21.	場所	26
1.22.	大きさ	27
1.23.	媒体	28

1.24.	検索手段	29
1.25.	オリジナル資料	30
1.26.	複製	31
1.27.	関連資料	32
1.28.	出版書誌情報	33
1.29.	ノート	34
1.30.	アーキビストのノート	35
1.31.	記述規則・記述作成年月日	36
1.32.	画像ファイルへのリンク情報	37
1.33.	マイクロフィルム情報	38
1.34.	資料固有情報	39
1.35.	外字情報	41
1.36.	英語用データ	42
1.37.	改行文字	43

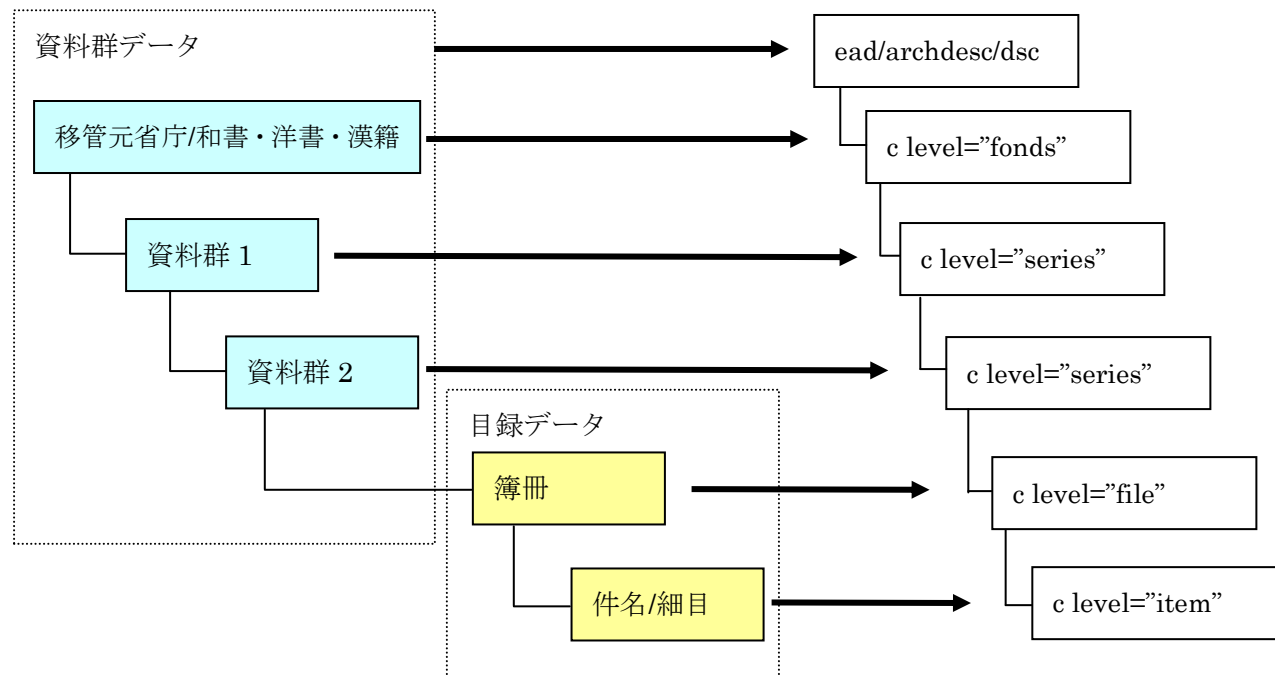
1.1. 対象となるデータの構成

対象となるデータは、各省庁から移管された公文書(以下「公文書」と記す)と内閣文庫の古典籍(以下「内閣文庫」と記す)の 2 つに分けられ、それぞれ資料群データと目録データに分類される。目録データはさらに簿冊レベルと件名(公文書)・細目(内閣文庫)レベルの 2 階層を持つ。公文書と内閣文庫、簿冊レベルと件名・細目レベルでは扱う項目に違いがあるため、項目のマッピングはそれぞれの資料種別について定義している。

資料群データと目録データは階層構造となっており、EAD の要素に対応させる。

以下にデータ構造と EAD 要素の対応を示す。

※資料群の階層は 4 階層になる場合もある。



1.2. EAD ヘッダ

データ移行及び新規登録データとして作成される EAD データでは、DTD によるバリデーションを行うために必要最低限の要素のみを EAD ヘッダ要素として記述する。

バリデーションを正常に行うために必要な要素は以下の通りである。空値となっている要素は空要素でもよい。

```
<ead audience="external">
  <eadheader audience="internal">
    <eadid></eadid>
    <filedesc>
      <titlestmt>
        <titleproper></titleproper>
        <author></author>
      </titlestmt>
    </filedesc>
  </eadheader>
  <archdesc level="fonds">
    <did>
      <unitid></unitid>
      <unittitle></unittitle>
    </did>
    <dsc>
      <!-- これ以降に c 要素を記述する -->
    </dsc>
  </archdesc>
</ead>
```

1.3. レファレンス・コード

全データ種別共通で did/unitid 要素を使用する。

identifier 属性にシステム上の目録 ID(20 桁の半角英数字)を記述する。目録 ID はシステム上で一意の識別子となる。新規作成データの場合、identifier 属性は省略される。

資料種別	対応項目	記述例
資料群	資料群階層・順序を表すコード(N-NNN-NNN-NNN-NN N)を付与する。	<did> <unitid identifier="F0000000000000000001">1-001-001-001-000</unitid> </did>
公文書簿冊	現行システムの「簿冊キー」項目の値を使用する。 簿冊キーの値は、 <u>簿冊番号 1</u> + <u>簿冊番号 2</u> + <u>簿冊番号 枝番</u> の組み合わせとなっている。	<did> <unitid identifier="F0000000000000000002">平 14 厚労 00001100</unitid> </did>
公文書件名	親簿冊キーと <u>件名番号</u> + <u>件名事項 SEQ</u> の組み合わせを使用する。	<did> <unitid identifier="M0000000000000000003">平 14 厚労 00001100-00100</unitid> </did>
内閣文庫簿冊	<u>請求番号</u> を使用する。	<did> <unitid identifier="F0000000000000000004">古 027-0517 イ</unitid> </did>
内閣文庫細目	<u>親簿冊請求番号</u> + <u>SEQ</u> を使用する。	<did> <unitid identifier="M0000000000000000005">古 027-0517 イ-0001</unitid> </did>

1.4. タイトル

全データ種別共通で did/unittitle 要素を使用する。資料種別により label 属性で区別する場合がある。

資料種別	対応項目	記述例
資料群	<u>名称</u>	<did> <unittitle label="名称">運輸省</unittitle> </did>
公文書簿冊	<u>簿冊表題</u>	<did> <unittitle label="簿冊表題">炭鉱労働者雇用安定法(1992)</unittitle> </did>
公文書件名	<u>件名</u>	<did> <unittitle label="件名">炭鉱離職者臨時措置法改正案の概要図</unittitle> > </did>
内閣文庫簿冊	<u>書名</u>	<did> <unittitle label="書名">大乘院寺社雑事記</unittitle> </did>
内閣文庫細目	<u>書名</u>	<did> <unittitle label="書名">書状・裏30丁</unittitle> </did>

1.5. 年月日

全データ種別共通で did/unitdate 要素を使用する。作成年月日など、特定の日付に限定せず、資料固有の日付として扱う。特定の日付を表す場合は label 属性で区別する。

資料種別	対応項目	記述例
資料群	<u>年月日</u>	<pre><did> <unitdate label="年月日" normal="18860000/19859999">1886(明治19)－1985(昭和60)</unitdate> </did></pre>
公文書簿冊	<u>作成年月日(FROM)、作成年月日(TO)、閏月フラグ</u> 閏月フラグがセットされている場合、unitdate 要素の PCDATA 内(年月日の先頭)に”[閏]”を記述する。	<pre><did> <unitdate label="作成年月日" normal="19920000/19939999">1992[閏]－1993</unitdate> </did></pre>
公文書件名	<u>作成年月日、閏月フラグ</u> 閏月フラグがセットされている場合、unitdate 要素の PCDATA 内(年月日の先頭)に”[閏]”を記述する。	<pre><did> <unitdate label="作成年月日" normal="19920000">1992[閏]</unitdate> </did></pre>
内閣文庫簿冊	<u>年月日種別、欠年フラグ、開始元号、終了元号、開始元号年月日、終了元号年月日、開始西暦年月日、終了西暦年月日(閏月フラグ)</u> 年月日種別はコードで datechar 属性に記述する。 欠年フラグがセットされている場合、PCDATA 内(年月日の先頭)に”[欠]”を記述する。 元号区分と元号名称はコードで PCDATA に記述する。 normal 属性に開始西暦年月日・終了西暦年月日を記述する。 開始・終了の閏月フラグがセットされている場合は、PCDATA 内(開始元号年月日及び終了元号年月日の後)に”[閏]”を記述する。	<pre><did> <unitdate label="年月日" datechar="03" normal="16140000/16579999">[欠]190:長祿:030101[閏]－199:永正:040320[閏]</unitdate> </did></pre>
内閣文庫細目	※内閣文庫簿冊と同じ	

1.6. 記述レベル

資料群データ、目録データとも c 要素を使用する。階層情報は level 属性の値により設定する。

移管元省庁／和書・洋書・漢籍	level="fonds"
資料群 1／2／3／4	level="series"
簿冊	level="file"
件名／細目	level="item"

資料群レベルはすべて level 属性値に"series"を持つが、c 要素の入れ子によりその階層を表す。

1.7. 数量

単位に関わらず、数量を表す項目は原則として did/physdesc/extent 要素を使用する。特定の数を表す項目の場合は label 属性により区別する。

単位が別に指定されている場合は extent 要素の unit 属性に記述する。

資料種別	対応項目	記述例
資料群	<u>数量</u>	<pre><did> <physdesc> <extent label="数量">4, 778件</extent> </physdesc> </did></pre>
公文書簿冊	<u>数量</u>	<pre><did> <physdesc> <extent label="数量">34 冊</extent> </physdesc> </did></pre>
公文書件名	<u>枚数</u>	<pre><did> <physdesc> <extent label="枚数">5</extent> </physdesc> </did></pre>
内閣文庫簿冊	<u>数量(単位)、数量(実数)</u> 単位は extent 要素の unit 属性に記述する。数量の繰返しは extent 要素の繰返しにより表現する。	<pre><did> <physdesc> <extent label="数量" unit="01">167</extent> <extent label="数量" unit="02">14</extent> </physdesc> </did></pre>
内閣文庫細目	※内閣文庫簿冊と同じ	

1.8. 作成者名称

全データ種別共通で did/origination 要素を使用する。label 属性により記述内容を区別する。

個人・組織・部署を含む場合に、下位要素として persname、corpname 要素を含むことがある。

資料種別	対応項目	記述例
資料群	<u>出所(部局)</u>	<did> <origination label="出所部局">鉄道院, 鉄道省, 運輸通信省, 運輸省鉄道局(国土交通省鉄道局)</origination> </did>
公文書簿冊	<u>作成部局</u>	<did> <origination label="作成部局">労働省職業安定局</origination> </did>
公文書件名	<u>作成部局</u>	<did> <origination label="作成部局">労働省職業安定局</origination> </did>
内閣文庫簿冊	<u>人名氏名、人名区分</u> 繰返しの場合は persname 要素を複数記述する。人名区分は persname 要素の role 属性にコードを記述する。	<did> <origination label="人名"> <persname role="01">尋尊</persname> </origination> </did>
内閣文庫細目	※内閣文庫簿冊と同じ	

1.9. 組織歴(または履歴)

bioghist 要素を使用する。資料群レベルの場合は p 要素で文字データを記述する。

内閣文庫の場合、書誌事項の繰返しを表現する。

資料種別	対応項目	記述例
資料群	<u>出所(部局)</u>	<pre><bioghist> <p>鉄道に関する行政組織は、明治3年3月に大蔵省鉄道掛が設置されて以後、工部省鉄道寮、工部省鉄道局、内閣鉄道局、内務省鉄道庁、通信省鉄道局と変遷した。明治39年3月鉄道国有化以後、明治41年に鉄道院(内閣)が設置され、大正9年には鉄道省に昇格した。昭和18年11月鉄道省が廃止され、新たに設置された運輸通信省鉄道総局となり、昭和20年5月に運輸省鉄道総局、同24年6月には鉄道監理局となった。昭和59年7月の行政改革の結果、地域交通局及び貨物流通局に分散担当されたが、平成3年7月再び鉄道局となり、同13年の省庁再編により国土交通省鉄道局となった。</p> </bioghist></pre>
公文書簿冊	なし	
公文書件名	なし	
内閣文庫簿冊	<u>書誌開始刊写の別、書誌開始和暦区分、書誌開始和暦名称、書誌開始刊行・書写年、書誌開始刊行・書写西暦年(閏 F)、書誌開始時代、書誌開始刊行書写者氏名、書誌終了刊写の別、書誌終了和暦区分、書誌終了和暦名称、書誌終了刊行・書写年、書誌終了刊行・書写西暦年(閏 F)、書誌終了時代、書誌終了刊行書写者氏名</u> 開始・終了の項目をまとめて chronitem 要素とする。EAD では chronlist の繰返しで表現する。 開始・終了の各項目は、和暦名称/和暦区分/刊行・書写年/時代を chronitem/date 要素、刊写の別を chronitem/event 要素の PCDATA、刊行書写者氏名を chronitem/event/persname 要素として記述する。 和暦は date の PCDATA に”時代:和暦区分:和暦名称+	<pre><bioghist> <chronlist> <chronitem> <date type="書誌開始和暦">室町:193:応仁:190102[閏]</date> <event>03<persname>尋尊</persname></event> </chronitem> <chronitem> <date type="書誌終了和暦">室町:197:明応:050101[閏]</date> <event><persname /></event> </chronitem> </chronlist> <chronlist> <chronitem> <date type="書誌開始和暦">室町:193:応仁:190203[閏]</date></pre>

	<p>刊行・書写年”の形で記述する。</p> <p>開始・終了の閏月フラグがセットされている場合は、PCDAT A 内(書誌開始刊行・書写年及び書誌終了刊行・書写年の後)に”[閏]”を記述する。</p>	<pre> <event>01<persname>尋尊</persname></event> </chronitem> <chronitem> <date type=”書誌終了和暦”>室町:197:明応:050401[閏]</date> <event><persname /></event> </chronitem> </chronlist> </bioghist> </pre>
内閣文庫細目	※内閣文庫簿冊と同じ	

1.10. 資料履歴(伝来)

custodhist 要素を使用する。文字データは p 要素内に記述する。

資料種別	対応項目	記述例
資料群	<u>出所(部局)</u>	<custodhist> <p>資料履歴</p> </custodhist>
公文書簿冊	なし	
公文書件名	なし	
内閣文庫簿冊	<u>旧蔵者</u> コードで p 要素の PCDATA に記述する。	<custodhist> <p>72</p> </custodhist>
内閣文庫細目	なし	

1.11. 入手先

acqinfo 要素を使用する。文字データは p 要素内に記述する。

公文書簿冊の場合、受入情報と移管情報、関連資料、参考文献をそれぞれ p 要素で記述する。

公文書件名の場合は関連資料、参考文献を p 要素で記述する。

資料種別	対応項目	記述例
資料群	<u>出所(部局)</u>	<pre><acqinfo> <p>運輸省鉄道局民営鉄道部管理課から昭和47, 49, 58年度に, 鉄道局 から平成9, 12年度に移管されている。</p> </acqinfo></pre>
公文書簿冊	<u>受入方法、受入年月日、移管省庁、移管年度、移管時 管理担当部局、関連資料、参考文献</u> 受入方法は1番目のp要素のPCDATAにコードで記述する。受入年月日はp/date要素に記述する。 移管情報は2番目のp要素に記述する。移管省庁はcorpname要素のPCDATAにコードで記述する。移管時管理担当部局はcorpname要素のPCDATAに記述する。移管年度はp/date要素に記述する。移管年度の元号はコードで記述する。 関連資料、参考文献はnote要素のlabel属性で区別する。	<pre><acqinfo> <p>1<date type="受入年月日" normal="20030424">20030424</date></p> <p> <corpname role="移管元機関等コード">i00</corpname> <corpname role="移管時管理担当部局">厚生労働省</corpname> <date type="移管年度" normal="20030000">247:14</date> </p> <p> <note label="関連資料、参考文献"></note> </p> </acqinfo></pre>
公文書件名	<u>関連資料、参考文献</u> 関連資料、参考文献はnote要素のlabel属性で区別する。	<pre><acqinfo> <p> <note label="関連資料、参考文献"></note> </p> </acqinfo></pre>
内閣文庫簿冊	なし	
内閣文庫細目	なし	

1.12. 資料内容

scopecontent 要素を使用する。資料群では文字データは p 要素内に記述する。

公文書、内閣文庫の場合、scopecontent の下に note 要素を記述し、label 属性により区別する。

資料種別	対応項目	記述例
資料群	<u>内容</u>	<pre><scopecontent> <p>大正8年に制定された地方鉄道法に基づく民営地方鉄道・軌道及び事業 所等の専用鉄道の敷設免許関係書類(一部軌道法に伴う軌道特許の書類も 含まれる)。大阪市営や京都市営鉄道等の地方自治体の運営する鉄道も含ま れる。大正12年の関東大震災で火災にあっているため、現存するものは大正期 以降のものが多く、昭和初期の整理により紫色の表紙に「鉄道省文書」のタイ トルが貼付され、個別鉄道ごとに免許申請・交付・変更・営業報告書・免許失効・ 営業廃止等の文書が編綴されている。個別鉄道の名称は、免許申請提出当時 のものである。なお、昭和戦前期に国有化されたものは含まない。昭和24年の 日本国有鉄道発足時に国鉄に移管されたものと思われる。</p> </scopecontent></pre>
公文書簿冊	<u>資料内容、関連事項</u> それぞれ note 要素で記述し、label 属性により区別する。	<pre><scopecontent> <note label="資料内容"><p>資料内容</p></note> <note label="関連事項"><p>事務資料綴り</p></note> </scopecontent></pre>
公文書件名	<u>資料内容、関連事項、文書番号、法令番号</u> それぞれ note 要素で記述し、label 属性により区別する。	<pre><scopecontent> <note label="文書番号"><p>434987</p></note> <note label="法令番号"><p>213334-55</p></note> <note label="資料内容"><p>資料内容</p></note> <note label="関連事項"><p>関連事項</p></note> </scopecontent></pre>
内閣文庫簿冊	<u>関連記事、数量(巻数)</u> note 要素で記述し、label 属性により区別する。	<pre><scopecontent> <note label="巻数"><p>4 巻(欠有り)</p></note> <note label="関連記事"><p>興福寺別当の大乗院門跡を務めた大僧正尋 尊の日記</p></note> </scopecontent></pre>

内閣文庫細目	<u>関連記事</u> note 要素で記述し、label 属性により区別する。	<scopecontent> <note label="関連記事"><p>正月 11 日 福天牛王宝印進上のこと</p></note> </scopecontent>
--------	---------------------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------

1.13. 評価、廃棄処分、保存年限

appraisal 要素を使用する。文字データは p 要素内に記述する。

資料種別	対応項目	記述例
資料群	<u>内容</u>	<appraisal> <p>評価, 廃棄処分, 保存年限</p> </appraisal>
公文書簿冊	なし	
公文書件名	なし	
内閣文庫簿冊	なし	
内閣文庫細目	なし	

1.14. 追加受入

accruals 要素を使用する。文字データは p 要素内に記述する。

資料種別	対応項目	記述例
資料群	<u>内容</u>	<accruals> <p>追加受入</p> </accruals>
公文書簿冊	なし	
公文書件名	なし	
内閣文庫簿冊	なし	
内閣文庫細目	なし	

1.15. 編成

arrangement 要素を使用する。文字データは p 要素内に記述する。

資料種別	対応項目	記述例
資料群	<u>内容</u>	<arrangement> <p>編成</p> </arrangement>
公文書簿冊	なし	
公文書件名	なし	
内閣文庫簿冊	なし	
内閣文庫細目	なし	

1.16. 公開条件

accessrestrict 要素を使用する。資料群では文字データは p 要素内に記述する。

簿冊及び件名では利用制限区分の値を格納する。

資料種別	対応項目	記述例
資料群	<u>利用情報</u>	<pre><accessrestrict> <p>公開(一部非公開箇所を含む)</p> </accessrestrict></pre>
公文書簿冊	<u>利用制限区分、利用決定日、原本の閲覧、提供媒体</u> accessrestrict 要素の type 属性により区別する。 利用決定日は p/date 要素に記述する。	<pre><accessrestrict type="利用制限区分"> <p>01<date type="利用決定日">20030424</date></p> </accessrestrict> <accessrestrict type="原本の閲覧"> <p>0</p> </accessrestrict> <accessrestrict type="提供媒体"> <p>1</p> </accessrestrict></pre>
公文書件名	<u>利用制限区分、利用決定日、原本の閲覧</u> accessrestrict 要素の type 属性により区別する。 利用決定日は p/date 要素に記述する。	<pre><accessrestrict type="利用制限区分"> <p>01<date type="利用決定日">20030424</date></p> </accessrestrict> <accessrestrict type="原本の閲覧"> <p>0</p> </accessrestrict></pre>
内閣文庫簿冊	※公文書簿冊と同じ	
内閣文庫細目	※公文書件名と同じ	

1.17. 利用または複写条件

userrestrict 要素を使用する。文字データは p 要素内に記述する。

資料種別	対応項目	記述例
資料群	<u>利用情報</u>	<userrestrict> <p>マイクロ化済(昭和47, 49年度移管分)資料の閲覧は, 原則としてマイクロフィルムによる。</p> </userrestrict>
公文書簿冊	なし	
公文書件名	なし	
内閣文庫簿冊	なし	
内閣文庫細目	なし	

1.18. 使用言語

did/langmaterial/language 要素を使用する。

システムでの言語コードをテキストノードの値とし、ISO-639-2b のコードに変換した値を language 要素の langcode 属性に記述する。コードの対応は以下の通りとする。

日本語(01):jpn

中国語(02):chi

英語(03):eng

ドイツ語(04):ger

フランス語(05):fre

その他(09):und

資料種別	対応項目	記述例
資料群	<u>利用情報</u> language 要素の PCDATA にコードで記述する。	<pre><did> <langmaterial><language langcode="jpn">01</language></langmaterial> </did></pre>
公文書簿冊	<u>言語</u>	<pre><did> <langmaterial><language langcode="jpn">01</language></langmaterial> </did></pre>
公文書件名	なし	
内閣文庫簿冊	<u>言語コード</u>	<pre><did> <langmaterial><language langcode="jpn">01</language></langmaterial> </did></pre>
内閣文庫細目	※内閣文庫簿冊と同じ	

1.19. 物的特徴

phystech 要素を使用する。文字データは p 要素内に記述する。

資料種別	対応項目	記述例
資料群	<u>利用情報</u>	<phystech> <p>図面が多く綴じこまれているので取扱いに注意が必要。</p> </phystech>
公文書簿冊	なし	
公文書件名	なし	
内閣文庫簿冊	なし	
内閣文庫細目	なし	

1.20. 物的特徴(2)

内閣文庫の資料固有の特徴については、did/physdesc/physfacet 要素を使用する。

資料種別	対応項目	記述例
資料群	なし	
公文書簿冊	なし	
公文書件名	なし	
内閣文庫簿冊	<u>装丁、料紙</u> physfacet 要素の label 属性で区別する。コードで記述する。	<pre> <did> <physdesc> <physfacet label="装丁">01</physfacet> <physfacet label="料紙">01</physfacet> </physdesc> </did> </pre>
内閣文庫細目	<u>料紙</u> physfacet 要素の label 属性で区別する。コードで記述する。	<pre> <did> <physdesc> <physfacet label="料紙">08</physfacet> </physdesc> </did> </pre>

1.21. 場所

公文書の保存場所に関する情報は、did/physloc 要素を使用する。

資料種別	対応項目	記述例
資料群	なし	
公文書簿冊	<p><u>保存場所(館)、保存場所(階・室)、保存場所(書架)、保存場所(棚)</u></p> <p>各項目を個別の physloc 要素に割り当て、label 属性により区別する。保存場所(館)についてはコードで記述する。</p>	<pre><did> <physloc label="保存場所(館)">02</physloc> <physloc label="保存場所(階・室)">05</physloc> <physloc label="保存場所(書架)">057</physloc> <physloc label="保存場所(棚)">00</physloc> </did></pre>
公文書件名	なし	
内閣文庫簿冊	なし	
内閣文庫細目	なし	

1.22. 大きさ

内閣文庫の大きさに関する情報については、did/physdesc/dimensions 要素を使用する。

資料種別	対応項目	記述例
資料群	なし	
公文書簿冊	なし	
公文書件名	なし	
内閣文庫簿冊	<u>法量</u> dimensions 要素の label 属性で区別する。コードで記述する。	<did> <physdesc> <dimensions label="法量">01</dimensions> </physdesc> </did>
内閣文庫細目	<u>大きさ</u> dimensions 要素の label 属性で区別する。	<did> <physdesc> <dimensions label="大きさ">大きさ</dimensions> </physdesc> </did>

1.23. 媒体

公文書の受入文書の媒体については、did/physdesc/genreform 要素を使用する。

資料種別	対応項目	記述例
資料群	なし	
公文書簿冊	<u>受入文書等の媒体</u> genreform 要素の type 属性で区別する。コードで記述する。	<pre> <did> <physdesc> <genreform type="受入文書等の媒体">00</genreform> </physdesc> </did> </pre>
公文書件名	なし	
内閣文庫簿冊	なし	
内閣文庫細目	なし	

1.24. 検索手段

otherfindaid 要素を使用する。文字データは p 要素内に記述する。

資料種別	対応項目	記述例
資料群	<u>検索手段</u>	<otherfindaid> <p>目録データベースでは、「移管省庁」欄に「運輸省」を入力し、鉄道名での検索が有効。但し申請時の名称である場合もあるので、名称変更のあるものは注意が必要。冊子目録は、「昭和47, 49, 58, 平成9.12年度移管 運輸省 公文書目録」</p> </otherfindaid>
公文書簿冊	なし	
公文書件名	なし	
内閣文庫簿冊	なし	
内閣文庫細目	なし	

1.25. オリジナル資料

originalsloc 要素を使用する。文字データは p 要素内に記述する。

資料種別	対応項目	記述例
資料群	<u>関連資料</u>	<originalsloc> <p>オリジナル資料</p> </originalsloc>
公文書簿冊	なし	
公文書件名	なし	
内閣文庫簿冊	なし	
内閣文庫細目	なし	

1.26. 複製

altformavail 要素を使用する。文字データは p 要素内に記述する。

資料種別	対応項目	記述例
資料群	<u>関連資料</u>	<altformavail> <p>複製</p> </altformavail>
公文書簿冊	なし	
公文書件名	なし	
内閣文庫簿冊	なし	
内閣文庫細目	なし	

1.27. 関連資料

relatedmaterial 要素を使用する。文字データは p 要素内に記述する。

資料種別	対応項目	記述例
資料群	<u>関連資料</u>	<relatedmaterial> <p>路面電車等の「軌道法」に基づくものは、建設省道路局路政課よりの移管文書(「軌道関係」)にも施設申請会社ごとの編綴で整理されている。交通博物館に旧国鉄関係の文書あり。</p> </relatedmaterial>
公文書簿冊	なし	
公文書件名	なし	
内閣文庫簿冊	なし	
内閣文庫細目	なし	

1.28. 出版書誌情報

bibliography 要素を使用する。文字データは p 要素内に記述する。

資料種別	対応項目	記述例
資料群	<u>参考文献</u>	<bibliography> <p>河野敬一「大正・昭和戦前期における鉄道敷設申請却下について」『北の丸』28 br 河野敬一「昭和戦前期までの鉄道関係公文書について」『北の丸』30</p> </bibliography>
公文書簿冊	なし	
公文書件名	なし	
内閣文庫簿冊	なし	
内閣文庫細目	なし	

1.29. ノート

note 要素を使用する。文字データは p 要素内に記述する。

資料種別	対応項目	記述例
資料群	<u>注記</u>	<note> <p>ノート</p> </note>
公文書簿冊	なし	
公文書件名	なし	
内閣文庫簿冊	なし	
内閣文庫細目	なし	

1.30. アーキビストのノート

processinfo 要素を使用する。文字データは p 要素内に記述する。

資料種別	対応項目	記述例
資料群	<u>注記</u> type 属性で区別する。	<processinfo type="アーキビストのノート"> <p>アーキビストのノート</p> </processinfo>
公文書簿冊	なし	
公文書件名	なし	
内閣文庫簿冊	なし	
内閣文庫細目	なし	

1.31. 記述規則・記述作成年月日

processinfo 要素を使用する。アーキビストのノートとは別の processinfo 要素で記述する。文字データは p 要素内に記述する。

資料種別	対応項目	記述例
資料群	<u>注記</u> 記述規則と記述作成年月日は type 属性で区別する。年月日は p/date 要素に記述する。	<pre> <processinfo type="記述規則"> <p>記述規則</p> </processinfo> <processinfo type="記述作成年月日"> <p> <date normal="20040300">2004 年 3 月</date>記入</p> </processinfo> </pre>
公文書簿冊	なし	
公文書件名	なし	
内閣文庫簿冊	なし	
内閣文庫細目	なし	

1.32. 画像ファイルへのリンク情報

daogrp/daoloc 要素を使用する。

daogrp 要素の audience 属性に画像データの公開・非公開情報(公開:external、非公開:internal)を記述する。

daoloc 要素の href 属性にリンク先のファイルパスを記述する。label 属性は画像形式により"jp2"、"pdf" となる。

資料種別	対応項目	記述例
資料群	なし	
公文書簿冊	<u>画像ファイルへのリンク情報</u>	<pre><daogrp audience="external"> <daoloc href="画像ファイルパス" linktype="locator" label="jp2"/> <daoloc href="画像ファイルパス" linktype="locator" label="pdf"/> </daogrp></pre>
公文書件名	<u>画像ファイルへのリンク情報</u>	<pre><daogrp audience="external"> <daoloc href="画像ファイルパス" linktype="locator" label="jp2"/> <daoloc href="画像ファイルパス" linktype="locator" label="pdf"/> </daogrp></pre>
内閣文庫簿冊	<u>画像ファイルへのリンク情報</u>	<pre><daogrp audience="internal"> <daoloc href="画像ファイルパス" linktype="locator" label="jp2"/> <daoloc href="画像ファイルパス" linktype="locator" label="pdf"/> </daogrp></pre>
内閣文庫細目	<u>画像ファイルへのリンク情報</u>	<pre><daogrp audience="internal"> <daoloc href="画像ファイルパス" linktype="locator" label="jp2"/> <daoloc href="画像ファイルパス" linktype="locator" label="pdf"/> </daogrp></pre>

1.33. マイクロフィルム情報

マイクロフィルム情報は did/container 要素を使用する。システム管理上各項目を個別に管理する必要があるため、label 属性により細分化して記述する。

資料種別	対応項目	記述例
資料群	なし	
公文書簿冊	<u>マイクロフィルム番号(リール)、マイクロフィルム番号(開始コマ)、マイクロフィルム番号(終了コマ)、マイクロフィルム番号(コマ数)</u>	<did> <container label="MF リール">S56B0100010000</container> <container label="MF 開始コマ">0001</container> <container label="MF 終了コマ">0005</container> <container label="MF コマ数">0005</container> </did>
公文書件名	<u>マイクロフィルム番号(リール)、マイクロフィルム番号(開始コマ)、マイクロフィルム番号(終了コマ)、マイクロフィルム番号(コマ数)</u>	<did> <container label="MF リール">S56B0100010001</container> <container label="MF 開始コマ">0001</container> <container label="MF 終了コマ">0005</container> <container label="MF コマ数">0005</container> </did>
内閣文庫簿冊	<u>マイクロフィルム番号(リール)、マイクロフィルム番号(開始コマ)、マイクロフィルム番号(終了コマ)、マイクロフィルム番号(コマ数)</u>	<did> <container label="MF リール">00000100010001</container> <container label="MF 開始コマ">0001</container> <container label="MF 終了コマ">0005</container> <container label="MF コマ数">0005</container> </did>
内閣文庫細目	<u>マイクロフィルム番号(リール)、マイクロフィルム番号(開始コマ)、マイクロフィルム番号(終了コマ)、マイクロフィルム番号(コマ数)</u>	<did> <container label="MF リール">00000100010001</container> <container label="MF 開始コマ">0001</container> <container label="MF 終了コマ">0005</container> <container label="MF コマ数">0005</container> </did>

1.34. 資料固有情報

各資料種別で固有の情報は did/materialspec 要素を使用する。label 属性により区別する。

資料種別	対応項目	記述例
資料群	<u>データ型種別、目録データ種別、資料種別</u>	<pre><did> <materialspec label="データ型種別">1</materialspec> <materialspec label="目録データ種別">1</materialspec> <materialspec label="資料種別">01</materialspec> </did></pre>
公文書簿冊	<u>データ型種別、目録データ種別、簿冊番号 1、簿冊番号 2、簿冊番号枝番、件名の表示、リンク URL、保存場所変更日付</u>	<pre><did> <materialspec label="データ型種別">1</materialspec> <materialspec label="目録データ種別">2</materialspec> <materialspec label="資料種別">01</materialspec> <materialspec label="簿冊番号 2">00001</materialspec> <materialspec label="簿冊番号枝番">100</materialspec> <materialspec label="件名の表示">0</materialspec> <materialspec label="リンク URL">http://www.archives.or.jp/related.html</materialspec> <materialspec label="保存場所変更日付">20041110</materialspec> </did></pre>
公文書件名	<u>データ型種別、目録データ種別、件名番号、件名事項 SE Q、リンク URL</u>	<pre><did> <materialspec label="データ型種別">1</materialspec> <materialspec label="目録データ種別">3</materialspec> <materialspec label="資料種別">01</materialspec> <materialspec label="件名番号">001</materialspec> <materialspec label="件名事項 SEQ">00</materialspec> <materialspec label="リンク URL">http://www.archives.or.jp/related.html</materialspec> </did></pre>
内閣文庫簿冊	<u>データ型種別、目録データ種別、請求番号(内閣文庫)、統計区分、写真版、リンク URL</u>	<pre><did> <materialspec label="データ型種別">2</materialspec> <materialspec label="目録データ種別">2</materialspec></pre>

		<materialspec label="資料種別">05</materialspec> <materialspec label="請求番号(内閣文庫)">古 027-0517 イ</materialspec> </did> <materialspec label="統計区分">00:和書</materialspec> <materialspec label="写真版">00:無</materialspec> <materialspec label="リンク URL"> http://www.archives.or.jp/related.html </materialspec> </did>
内閣文庫細目	<u>データ型種別、目録データ種別、請求番号(内閣文庫)、SEQ、冊次、リンク URL</u>	<did> <materialspec label="データ型種別">2</materialspec> <materialspec label="目録データ種別">3</materialspec> <materialspec label="資料種別">05</materialspec> <materialspec label="請求番号(内閣文庫)">古 027-0517 イ</materialspec> </did> <materialspec label="SEQ">0054</materialspec> <materialspec label="冊次">0001</materialspec> <materialspec label="リンク URL"> http://www.archives.or.jp/related.html </materialspec> </did>

1.35. 外字情報

コードで指定される外字情報は”#Mxxxxxx#”の形式でテキストノード内に埋め込む。

“xxxxxx”は 6 桁の文字図形番号(0 埋め)とする。

1.36. 英語用データ

（資料群のみ）

資料群の英語データは、各項目にテキストノードとして埋め込む。その際、区切り文字列として”||”（半角 | 2 つ）を埋め込み、前が日本語データ、後を英語データとする。

※記述例

```
<did>  
  <unittitle label="名称">運輸省||Ministry of Land, Infrastructure and Transport</unittitle>  
</did>
```

1.37. 改行文字

(資料群のみ)

資料群データ内では、改行を”|br|”(すべて半角)という文字列によって表す。

※記述例

<otherfindaid>

<p>医師，看護婦，薬剤師等医療に携わる者は，それぞれ，医師法(昭和23法律201)，保健婦助産婦看護婦法(昭和23法律203)，薬剤師法(昭和35法律146)等により厚生大臣の免許が必要とされている。本資料は，これらの免許申請に関する文書である。医師，看護婦，薬剤師のほか，保健婦，助産婦，臨床検査技師に係る免許申請が含まれている。|br||br|移管されている文書は，免許別，作成年別に綴られている。</p>

</otherfindaid>